

# 日本放送協会 理事会議事録

(平成30年12月18日開催分)

平成31年 1月11日(金)公表

<会議の名称>

理事会

<会議日時>

平成30年12月18日(火) 午前9時00分～9時20分

<出席者>

上田会長、堂元副会長、木田専務理事、坂本専務理事、  
児野専務理事・技師長、松原理事、荒木理事、黄木理事、菅理事、  
中田理事、鈴木理事、松坂理事、今井特別主幹  
高橋監査委員

<場所>

放送センター 役員会議室

<議事>

上田会長が開会を宣言し、議事に入った。

付議事項

## 1 審議事項

- (1) 第1320回経営委員会付議事項について
- (2) 放送制作要員(ディレクター)の一体運用に向けた組織改正について

## 2 報告事項

- (1) 2018年11月全国個人視聴率調査の結果について

議事経過

## 1 審議事項

### (1) 第1320回経営委員会付議事項について (経営企画局)

12月25日に開催される第1320回経営委員会に付議する事項について、審議をお願いします。

付議事項は、審議事項として、「平成31年度収支予算編成要綱」、報告事項として、「NHKの土地交換に関する基本合意について」、「契約・収納活動の状況（平成30年11月末）」、「予算の執行状況（平成30年11月末）」、および「地方放送番組審議会委員の委嘱について」です。また、その他事項として、「NHKグループ経営改革の進捗状況について」です。

(会 長)           ご意見等がありませんので、原案どおり決定します。

### (2) 放送制作要員（ディレクター）の一体運用に向けた組織改正について (経営企画局)

放送制作要員（ディレクター）の連携強化および働き方改革の推進に向けた組織改正について、審議をお願いします。

放送制作要員（ディレクター）の一体運用を推進し、限られた経営資源で最高水準の放送・サービスを継続的に実施していくため、放送総局内に臨時職制「PD一体運用事務局」を設置します。また、組織改正に伴う職務権限や規程の整備を行います。

本件が決定されれば、2019年1月7日付で実施します。

(会 長)           本件は長期にわたり議論をしてきました。今までの議論を踏まえて、この組織改正で目指すことを、臨時職制が置かれている期間にしっかりと達成してほしいと思っています。

(会 長)           他にご意見等がありませんので、原案どおり決定します。

## 2 報告事項

### (1) 2018年11月全国個人視聴率調査の結果について (放送文化研究所)

2018年11月に実施した、全国個人視聴率調査の結果について報告します。この調査は、全国のテレビ・ラジオのリアルタイムの視聴率を調べています。視聴率の全国状況を俯瞰し、テレビ・ラジオ視聴の長期的・構造的変化を確認しています。

調査は11月12日月曜日から18日日曜日までの1週間、全国の7歳以上の男女3,600人を対象に、配付回収法による24時間時刻目盛り日記式(個人単位)で実施しました。有効数は2,310人、有効率は64.2%でした。調査週の状況は、大相撲九州場所(総合テレビ・BS1・ラジオ第1)の放送週で、総合テレビとラジオ第1放送で火曜日に安倍首相とアメリカのペンス副大統領による日米共同記者発表、金曜日に安倍首相記者会見があり、金～日曜日に「フィギュアスケートグランプリシリーズ」(テレビ朝日系列)、月～金曜日に「ATP ワールドツアー ファイナル」の錦織圭選手出場試合(BS1)などの放送がありました。

テレビ視聴時間の推移を見ると、NHKと民放の地上波・衛星波を合わせたテレビ総計は週平均1日あたり3時間43分で、10年前(2008年)の3時間51分と比べてやや短くなっています。NHK総計は横ばいで推移しており、2015年から2017年までは1時間を切っていました。今年も1時間ちょうどとなっています。

テレビ総計の視聴時間を男女年層別に見ると、高年層ほど長く、男70歳以上で6時間を超えますが、男女ともに40代以下では減少傾向です。テレビ総計の週間接触者率は若年層で10年前と比べて減少しており、特に男13歳から30代では7割台にとどまっています。

テレビの週間接触者率の長期推移を見ると、総合テレビは55.2%で、前年、前々年と比べて変化はありません。テレビ総計は90.0%で前年、前々年と比べて変化はないものの、長期的に見ると漸減傾向が続いています。民放地上波計は83.8%となり、前年同様低い水準になりました。

まず、総合テレビの結果です。

男女年層別の週間接触者率を見ると、女13～19歳は前年、前々年から増加し、女40代以下でも、前年より増加しました。男女59歳以下は前年からやや増加しました。

男女59歳以下の接触者率が曜日累積する状況を見ると、月曜日から一貫して前年を上回り、土日になるとさらに積み上げは増えました。

よく見られた番組は、連続テレビ小説「まんぷく」、「NHKニュース7」、「大相撲九州場所」、大河ドラマ「西郷どん」などでした。土曜午前8時15分からの「チョコちゃんに叱られる！」の再放送もよく見られました。

土曜朝の状況について、8時から9時までの5分ごとの視聴率を見ると、全体および男女59歳以下で、前年から増加しました。特に、「チョコちゃんに叱られる！」の再放送は幅広い年齢層で見られています。

次に、Eテレの結果です。

Eテレの週間接触者率は25.1%でした。前年、前々年並みで、2014年以降同程度で推移しています。一方、男女20～40代で子ども（小学生以下）がいる人、子どものいない人の週間接触率の推移を見ると、男20～40代の子どものいない人で、前年に比べて減少しました。

続いて、衛星放送の結果です。

自宅で衛星放送を見ることができる人の割合は49.7%で、前年と同程度でした。衛星各波の週間接触者率の推移については、BS1は11.1%で前年に比べて増加し、前々年並みとなりました。BSプレミアムと民放衛星計は横ばいで、NHK衛星計はBS1に連動して前年より増加しましたが、NHKと民放をあわせた衛星計に変化はありませんでした。NHK衛星でよく見られた番組は、BS1では「ATP ワールドツアー ファイナル」の錦織圭選手出場試合、「キャッチ！世界のトップニュース」などで、BSプレミアムでは連続テレビ小説「まんぷく」、「にっぽん縦断こころ旅・朝版」、大河ドラマ「西郷どん」などでした。

衛星放送の年層別の週間接触者率について、10年ごとの推移を見ると、10年前と比べNHK衛星計は50代で減少し、70歳以上で増加しています。民放衛星計は13～19歳で減少し、60代以上で増加しています。その結果、NHKと民放をあわせた衛星計は、7～12歳などの若・中年層で減少し、70歳以上で増加しました。

ラジオの結果です。

週間接触者率の推移を見ると、ラジオ第1は、前年よりやや増加したものの、前々年と同程度でした。民放ラジオ計は、前年、前々年と比べて減少しました。ラジオ全局計は前年よりやや減少し、長期的に見ても漸減傾向が続いています。男60代のラジオ週間接触者率の推移について見ると、ラジオ第1は前々年と比べて減少し、民放AM計は前年、前々年と比べて減少しました。その結果、ラジオ全局計はこの10年間で最も低くなりました。

最後に、NHK7波の接触のパターンです。「総合接触」（「総合のみ」「総合+いずれかの波」に接触）している人が55.3%と半数を超えます。年層別で見ると、60歳以上は「総合接触」が81%と最も多く、59歳以下は「総合接触」が少ないものの、前年と比べるとやや増加しました。

以上で付議事項を終了した。

上記のとおり確認した。

平成31年 1月 8日

会 長 上 田 良 一